

第58回 粉体工学に関する講演討論会

The 58th Symposium on Powder Technology

令和 8 年 6 月

各 位

第 58 回 粉体工学に関する講演討論会のご案内

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
理事長 細 川 悦 男

謹 啓

ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、恒例の「粉体工学に関する講演討論会」は 58 回目を迎え、本年も引き続き当財団主催、ホソカワミクロン株式会社の後援のもとで開催する運びとなりました。

今回は、テーマとして「粉体プロセスの進歩とその応用展開」を掲げ、別紙プログラムのとおり講演と討論をお願い申し上げます。諸事ご多用のことと存じますが、多数の方々のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

なお本講演会は、昨年開催に際してお寄せいただいたご意見をもとに、より多くの方々にご参加いただけるよう、会場参加とオンライン参加を併用したハイブリッド形式で実施いたします。

ご参加を希望される方は、下記の申込フォームより、会場またはオンライン参加のいずれかを選択のうえ、お申し込みください。なお、本講演討論会終了後に懇親会を開催いたしますので、あわせてご参加賜りますようお願い申し上げます。

ご参加のお申し込みは、下記 QR コードまたは URL< <https://forms.cloud.microsoft/r/MgZxY3t6qe> >の専用申込フォームよりお願いいたします。なお、誠に勝手ながら、定員に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。

敬 白

<記>

【日 時】令和 8 年(2026 年)9 月 2 日(水) 午前 10 時 00 分～午後 4 時 50 分

【場 所】[グランキューブ大阪 \(大阪府立国際会議場\)](#) 12F 特別会議場

オンライン併用によるハイブリッド開催

【主 催】公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団

【後 援】ホソカワミクロン株式会社

【定 員】会場 100 名、オンライン 200 名

【参加費】無料

【申込フォーム】<https://forms.cloud.microsoft/r/MgZxY3t6qe>

【申込受付期間】6 月 15 日 (月)～8 月 24 日 (月) ※ 定員に達し次第、締め切ります。

【お問合せ先】(公財)ホソカワ粉体工学振興財団 講演討論会事務局

〒573-1132 大阪府枚方市招提田近 1-9, Tel: 072-867-1686, 携帯: 090-4496-3443

URL: <https://www.kona.or.jp> E-mail: contact_zaevent@hmc.hosokawa.com

申込 QR コード



第58回 粉体工学に関する講演討論会

The 58th Symposium on Powder Technology

テーマ

「粉体プロセスの進歩とその応用展開」

日時

令和8年(2026年) 9月2日(水) 10:00~16:50

場所

グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場) 12F 特別会議場

オンライン併用によるハイブリッド開催

主催

公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団

後援

ホソカワミクロン株式会社

定員

会場 100名、オンライン 200名

【申込フォーム】

QRコード



【申込受付期間】 6月15日(月)~8月24日(月) ※定員に達し次第締切

【参加費無料】 申込URL : <https://forms.cloud.microsoft/r/MgZxY3t6qe>

次第

●開会挨拶 (10:00~10:10) ホソカワ粉体工学振興財団 理事長 細川 悦男

【セッション1】 司会 ホソカワ粉体工学振興財団 常務理事 内藤 牧男
大阪大学 名誉教授

★講演1 (10:10~11:00)
「ソルボサーマルプロセスをベースとした新規機能性粉体の創製」
東北大学多元物質科学研究所 教授 殷 澍

★講演2 (11:00~11:50)
「粒子設計工学に基づく粉体プロセスと製剤設計の新展開」
愛知学院大学薬学部 教授 山本 浩充

☆昼食休憩 (11:50~13:00)

【セッション2】 司会 大阪大学 教授 関野 徹

★講演3 (13:00~13:50)
「次世代ものづくりのための粉体の数値シミュレーションとデータサイエンス」
東京大学大学院工学系研究科 教授 酒井 幹夫

★講演4 (13:50~14:40)
「粉体焼結プロセスによる酸化物系全固体電池の開発」
国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究グループ長 奥村 豊旗

☆コーヒーブレイク (14:40~15:00)

【セッション3】 司会 同志社大学 教授 白川 善幸

★講演5 (15:00~15:50)
「粒子の衝突固化現象を用いたエアロゾルデポジション法とその実用化」
TOTO株式会社 名誉フェロー 清原 正勝

★講演6 (15:50~16:40)
「乾式による粒子設計のスケールアップ」
ホソカワミクロン株式会社 粉体工学研究所 花市 祐介

●閉会挨拶 (16:40~16:50) ホソカワミクロン株式会社 代表取締役社長 細川 晃平

☆懇親会 (17:00~18:30) (同フロアにて)

粉体プロセスの進歩とその応用展開

講演 1 (10:10~11:00)

「ソルボサーマルプロセスをベースとした新規機能性粉体の創製」

東北大学多元物質科学研究所 教授 殷 澍

高温水や非水溶媒を用いるソルボサーマル反応、および水分子を緩やかに放出する新規溶液プロセスといった環境調和型のソフトケミカル合成手法により、多様な機能性無機粉体材料の創製とその高度な機能化発現について紹介する。粉体材料の形態、結晶化度、結晶相、粒子サイズの精密制御によって実現した新規環境応答機能として、紫外線遮蔽、赤外線遮蔽、温熱治療、多機能性光触媒、環境ガス応答、および層状構造を有する新規パール顔料の事例について解説する。



講演 2 (11:00~11:50)

「粒子設計工学に基づく粉体プロセスと製剤設計の新展開」

愛知学院大学薬学部 教授 山本 浩充

薬学における粒子設計工学は、粉体工学的手法を応用して医薬品や添加剤を分子レベル・粒子レベルで機能設計された粒子として創製することで、製剤の機能を最大限に発揮させようとする概念である。本講演では、粒子設計工学を基盤として我々が取り組んできた難溶解性薬物の溶解性改善や低成形性化合物の成形性改善、さらに球形晶析法を応用したナノ粒子技術について紹介するとともに、分子特性と粒子構造を起点とした製剤機能設計の今後の展開について展望する。



講演 3 (13:00~13:50)

「次世代ものづくりのための粉体の数値シミュレーションとデータサイエンス」

東京大学大学院工学系研究科 教授 酒井 幹夫

著者のグループは離散要素法 (DEM) コミュニティを国際的に牽引し、DEM 粗視化モデルや固気液三相流モデルをはじめとする粉体産業の次世代ものづくりに資するシミュレーションモデルを開発している。最近では、固有直交分解によるモード解析や AI を用いた縮約モデルを開発し、粉体プロセスにデータサイエンスを導入している。これらの技術は今後、粉体プロセスのデジタルツイン実現の基盤技術となることが期待される。



第58回 粉体工学に関する講演討論会

The 58th Symposium on Powder Technology

講演 4 (13:50~14:40)

「粉体焼結プロセスによる酸化物系全固体電池の開発」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究グループ長 奥村 豊旗

酸化物は一般的に、「燃えず・安定で・無害な」特徴がある。そのため、酸化物固体電解質を用いた全固体焼結電池は、高安全かつ長寿命な蓄電デバイスとされている。ただ他の蓄電池と異なり焼結を必要とするため、新たに蓄電池の粉体焼結に適した材料技術・プロセス技術が重要となる。本講演では、産総研でこれまで取り組んできた酸化物系全固体焼結電池の粉体材料開発や粉体プロセス技術開発の内容について紹介する。



講演 5 (15:00~15:50)

「粒子の衝突固化現象を用いたエアロゾルデポジション法とその実用化」

TOTO 株式会社 名誉フェロー 清原 正勝

産総研の明渡らにより発見された「セラミックス粒子を基板上に直接衝突させ、常温で緻密なセラミックス製膜体を形成できる」といった新しい製膜技術（エアロゾルデポジション法（AD法））は、常温でセラミックスの製膜体を形成できることから注目されているが、実用化に結び付いた例が少ない。そんな中、我々は、2012年に世界で初めて実用化、製品化を実現した。本日は、AD法技術の紹介とその製品化に至ったポイントについて述べる。



講演 6 (15:50~16:40)

「乾式による粒子設計のスケールアップ」

ホソカワミクロン株式会社 粉体工学研究所 花市 祐介

乾式粒子複合化装置ノビルタは圧縮、衝撃、せん断の3つの力をバランスよく粒子に作用させ、複合化・精密分散・球形化といった粒子設計を行う装置である。ノビルタは電池、電子材料、製薬など様々な業界でラボ機から生産機スケールまで使用していただいている。本発表では改めてノビルタを用いた粒子設計の事例を紹介し、特に医薬品原薬の球形化によるハンドリング性の改善およびスケールアップの事例について報告を行う。

